

ビワ生育情報

第 7 報
千葉県農林水産部
令和 7 年 4 月号

4月1日時点での幼果の発育は「楠」、「大房」、「田中」とも平年より遅く、収穫期は平年より遅いと予想されます。

果実の発育

4月1日現在のビワの果径を表1に示した。横径は「楠」が1.58cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ1.32cm、1.46cmであった。平年と比較すると「楠」は97%、「大房」は83%、「田中」は92%であった。

縦径は「楠」が1.95cm、「大房」、「田中」は3地区の平均でそれぞれ1.64cm、1.83cmであった。平年と比較すると「楠」は96%で、「大房」は83%、「田中」は91%であった。

果形指数は「楠」が0.81、「大房」、「田中」は3地区の平均でともに0.80であった。本年の果形指数は3品種とも平年並みである。

果実の発育は3品種とも平年より遅く推移している。今後の気象にも影響されるが、収穫期は平年より遅いと予想される（各品種における平年値（平成6年～令和5年）は前年の7月号を参照）。

表1 果実の発育（4月1日の果径）

品種	調査地点	横径（cm）			縦径（cm）			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	暖地園研	1.58	1.62	2.09	1.95	2.03	2.49	0.81	0.80	0.84
大房	青 木	1.15	1.61	1.87	1.44	1.99	2.19	0.80	0.80	0.85
	南 無 谷	1.39	1.68	2.09	1.70	2.07	2.41	0.81	0.80	0.87
	暖地園研	1.42	1.55	1.95	1.78	1.95	2.19	0.79	0.79	0.89
	平 均	1.32	1.60	1.97	1.64	1.99	2.27	0.80	0.80	0.87
田中	青 木	1.20	1.60	1.85	1.61	2.01	2.32	0.75	0.79	0.80
	南 無 谷	1.64	1.62	1.76	1.96	2.09	2.23	0.84	0.77	0.79
	暖地園研	1.55	1.58	2.06	1.92	2.02	2.59	0.81	0.78	0.80
	平 均	1.46	1.59	1.89	1.83	2.02	2.38	0.80	0.79	0.80

果形指数：横径／縦径

平年：平成7年～令和6年の30年間の平均

南無谷は平成10年～令和6年の27年間の平均

令和7年3月の気象

令和7年3月の半旬別の気象を表2に示した。平均気温は第1、第3、第5、第6半旬は平年より高く、第2、第4半旬は平年より低かった。月平均気温は11.4℃で、平年より1.3℃高く、前年より1.0℃高かった。

月最低極温は第2半旬の-0.2℃で、氷点下日数は1日であった。

降水量は第1、第3、第4半旬は平年より多く、第6半旬は平年並み、第2、第5半旬は平年より少なかった。月合計は244.5mmで平年の158%、前年の95%であった。

日照時間は第2、第4、第5半旬は平年より多く、第1、第3、第6半旬は平年より少なかった。月合計は182時間で平年の109%、前年の98%であった。

表2 令和7年3月の気象(アメダス館山市)

半旬	平均気温 (℃)			氷点下日数 (日)			最低極温 (℃)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	9.6	8.6	8.8	0	0.5	0	2.6	0.7	0.0
2	7.4	9.2	6.8	1	0.6	1	-0.2	1.0	-0.7
3	12.6	9.7	10.6	0	0.5	1	4.4	0.4	-0.6
4	8.7	10.4	12.0	0	0.1	0	0.3	2.3	4.8
5	15.8	10.9	9.2	0	0.2	1	1.7	2.4	-0.5
6	14.1	11.6	14.9	0	0.2	0	5.2	2.7	6.6
平均/計/最小値	11.4	10.1	10.4	1	2.1	3	-0.2	0.4	-0.7

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	54.0	25	52.5	20	26	23
2	7.0	24	35.0	32	27	31
3	99.0	22	58.5	17	28	42
4	53.5	23	0.5	35	27	31
5	0.0	27	21.5	49	27	23
6	31.0	33	90.5	29	33	36
計	244.5	155	258.5	182	167	185

平 年：平成3～令和2年の30年間の平均

最低極温：各半旬あるいは3月中に記録した最低気温

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある

5月の作業

収穫前にモノレールや道路を整備するとともに園内の草を払っておき、収穫道具や出荷用資材を揃えておく。1樹の収穫は2～3回に分けて収穫適期の果実を収穫するが、特に1回目の収穫では未熟果が混入しないように果皮色をよく確認して収穫する。

果樹カメムシ類の予想発生量は中発生とされている。カメムシ類が飛来する量や時期は地域やほ場により差があるので、飛来量が増える4月下旬以降に園内外をよく見回り、飛来がみられた場合には、千葉県農作物病害虫雑草防除指針に従って防除を行う。

台木の養成

ビワの苗木は、生産しているところが少ないので、自家生産に取り組む。収穫した果実から種子を採り、種まきして、台木用の実生苗を確保しておく。「楠」の実生は、は種後の生長が早く、根張りが良いので、台木に適している。接ぎ木を行う場合は2、3年間養成して、幹が直径1.5cm程度の太さになった台木を用いる。実生苗は、降雨によってごま色斑点病が伝搬して多発し、枯死することがあるので、雨よけ施設で管理する。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室

電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>